

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 分かる授業・児童の思考を深める授業の実践
- 言語活動を充実させ、児童の表現力を伸ばす授業の実践
- 子ども同士が互いに認め合い、学び合う授業の実践

日和佐小学校
「学力向上実行プラン」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 研修主任：中西可奈江 (4学年担任)	委員 教頭：藤崎知幸 教務主任：藤中三葉
	1学年担任：野田知栄子
	6学年担任：山本知子
	特別支援コーディネーター：水口裕一

校長

森北 和典

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職・教員相互による授業参観、教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題にまじめに取り組むことができる児童が多く、漢字の読み書きや計算の力は身に付いてきている。 ●学習内容の理解や定着における個人差が大きく、個別支援の必要な児童が多い。文章をていねいに正しく読み取るのが苦手な児童が多い。	・聞くこと・話すこと・書くことを大切に、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。また、文章を正しく読み取ることができる。 ・学習の過程で習得した知識を、既習の知識と関連付け、他の学習や生活の場面において活用することができる。 ・苦手な学習課題に対しても、粘り強く取り組むことができる。	・漢字・計算の学習を計画的に行い、定着度を確認しながら、復習を継続していく。 ・発問や指示は短く、分かりやすい言葉で明確にすることを意識していく。 ・複数教員による指導体制においては、事前に打ち合わせするなど効果的に活用し、充実した個別指導を継続する。 ・文章を読み取る場面では、イメージしやすいように、身近な生活場面を結びつけたり、線や印をつけたりするなど細かな指導を取り入れる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○理由や根拠をもとに、自分の思いや考えを書いたり伝えたりする機会を意図的に設定することにより、自分の考えをもち、発表する意識が高まってきている。 ●相手を意識した声の大きさや話し方、自分の考えを筋道を立てて相手に分かるように表現すること、また、人の話を最後まで聞き取ることに課題が見られる。	・自分の考えを、根拠や理由を明らかにし、筋道を立てて、相手に分かるように表現することができる。 ・伝えようという気持ちをもち、場に応じた声の大きさで、相手に伝わるように話すことができる。 ・教師や友達の話をしっかりと聞き取ることができる。 ・必要な情報等を取り入れ、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりできる。	・全員が話す機会を意図的に設定していく。 ・個人で考える時間をしっかりと確保し、ペアや小集団で話し合い、みんなに発表するという段階をふんで、自分の考えを表現したり、互いの意見を伝え合ったりする。 ・話の聞き方についての掲示や話し合いのルール、方法・話形を活用する。 ・ホワイトボードやICT等を効果的に用いることで、様々な表現方法や発表形態を身に付けられるようにする。 ・子どもたちの発言をつないでいくことを意識し、よい発表の仕方を取り上げていく。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習のふり返りを大切にすることにより、自分から課題を見つけたり、自己評価したりして次の学習につなげられる児童が少しずつ増えてきている。 ●自分から見つけた疑問や課題に対して、意欲的に追究する態度が十分には育っていない。	・学習に主体的に取り組む、自ら課題や問題点を見つけ、進んで考え、学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、見通しをもって実践することができる。	・問題解決的な学習ができるよう、子供の思考の流れを意識して、単元構成を考える。 ・毎時間あるいは単元末ごとに振り返りや自己評価をする時間を意識して設定し、自分の学習の状況を振り返り、次の学びにつなげられるようにする。 ・学年に応じた自主学習の方法を提示し、よい取り組みを紹介・称賛するなど、宿題以外の家庭学習にも進んで取り組めるようにする。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

